

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つくしんぼ教室（分園）			
○保護者評価実施期間	2024年12月9日		～	2025年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59	(回答者数)	31
○従業者評価実施期間	2024年12月9日		～	2025年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	18
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種の職員が勤務し、グループ療育、個別療育で子どもと関わることで多方面から子どもの姿を見ることにより、一人ひとりの課題を見出し、支援方法について検討したことを療育の中で活かしたり、保護者や所属園への助言につなげることが出来ます。	個別療育利用後は専門職による報告会をパート別（OT・ST・心理相談）に心理相談はその日のうちに、OT・STは月に1回行っています。報告会ではグループ療育での姿と保護者から聞いた園や家庭での姿から子どもの今の課題や支援方法について検討し、共有した上で、すべての職員が同じ支援を行えるように努めています。	職員の勤務時間が多様で、全員で報告会を開催することが難しいため報告内容を記録に残しています。業務の多様化により記録に目を通す時間の捻出が難しいところですが、報告会の日程を把握し、職員自らが情報共有に努めています。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	通常の保育を基本とした中で、保護者参加の行事やイベントを取り入れています。兄弟児の参加については要相談としており、参加の機会が設けられていません。	会場の大きさに限りがあることや通常の保育に近い環境の中で利用児がいつもと同じ姿で安心して行事に参加して欲しいという職員の思いもあります。参加人数の制限を行い、対象児より年齢の小さい兄弟児の参加受け入れについては保護者と相談をしていますが、学齢期の兄弟児については難しい状況にあります。	利用児が安心して行事に参加できる環境を確保した上で、兄弟児が参加できるよう参加対象枠を設けて参加時間を区切る等の工夫を検討していきたいと思います。年齢の高い兄弟児には行事参加の他、学校の長期休みを利用して行われる事業所のボランティア活動等への参加も呼びかけたいと思います。
2			
3			